

平成30年12月4日(火)

師走4日

師走は当て字で、語源は諸説あり、正確な語源は未詳である。

師走の主な語源説として、師匠の僧がお経をあげるために、東西を馳せる月と解釈する『師馳す(しはす)』がある。この説は、平安末期の「色葉字類抄(いろはじるいしょう)」に、『しはす』の注として説明されている。

その他、年が果てる意味の『年果つ(としはつ)』が変化したとする説。

『四季が果てる月』を意味する『四極(しはつ)』からとする説。

『一年の最後に為し終える』意味の『為果つ(しはつ)』からとする説等がある。

12月の異名は、おうとう(黄冬)、おとづき(弟月)、おやこづき(親子月)、かぎりのつき(限月)、くれこづき(暮来月)、けんちゅうげつ(建丑月)、ごくげつ(極月)、しわす(師走)、はるまちつき(春待月)、ばんとう(晩冬)、ひょうげつ(氷月)、ぼさい(暮歳)、ろうげつ(臘月)等々。

この中で、いかにも今の心境を表している言葉は、春待ち月ですね。耐えて耐えて粘りに粘って、扉をこじ開けて、果実をつかみ取るまで、一日のなかの一秒一秒を重ねているのを実感しながら歩みを止めず、前を向いて進むだけの今。

春は必ずやってくるのです。花は必ず咲くのです。